

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月28日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 1271900266 |
| 法人名 | 株式会社ジャパン・ケア・サポート |
| 事業所名 | グループホーム楠の杜 |
| 所在地 | 千葉県匝瑳市飯倉台1-4-12 (電話) 0479-70-0234 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人コミュニティケア研究所 | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年9月28日 | 評価確定日 | 11月7日 |

【情報提供票より】(19年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|---------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成16年10月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 23 人 | 常勤12人, 非常勤 11人, 常勤換算15.4人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造 | | |
| | 1 階建ての | 1 階 ~ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|----------------------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 55,000 円 | その他の経費(月額) | 水光熱15,000 + 食45,000 + 実費 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(200,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 無利子無利息とし退居時の居室改修費を相殺して残金返却 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 450 円 |
| | 夕食 | 650 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 1,500円 | | | |

(4) 利用者の概要(9月5日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 16 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 5 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 4 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84.1 歳 | 最低 | 58 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------|
| 協力医療機関名 | 鈴木医院 匝瑳市民病院 いむら歯科 |
|---------|-------------------|

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム楠の杜は駅から程近く、新興住宅街でありながら、周りにはまだ多くの自然が残っている。ホームの裏には入居者と職員の共同作業による畑があり、ジャガイモやなす等の野菜を作り、献立に取り入れている。また納涼会には、入居者、家族等総勢60人程が集まり、模擬店や花火大会で大盛況であった。日中、入居者はリビングで話をしたり、テレビを見たり、数名でちぎり絵作品を制作する等、和気藹々と過ごしている。また、近隣で飼っているヤギを見に行くなど、地域との関係作りにも努める、まさに家庭的な雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回指摘された定期健康診断は、かかりつけ医や提携医の協力、市の健康診断で、年1回実施することになった。地域住民との交流の促進は、新興住宅地でアパートが多いこともあり、長期的視野で取組みを進めている。地域連携の一環として、社会福祉協議会が代表で行っている高齢者保護事業に賛同し、徘徊してしまった高齢者の保護活動を始めた。職員育成については、引き続き取り組みが期待される。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の調査では、自己評価票を全職員に配布し、記入された書類を事務担当者が取りまとめたかたちで作成した。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 3ヵ月に1回、市の担当者・民生委員・地区会長・グループホーム立ち上げの際の関係者、家族代表、ホーム代表の参加で開催している。外部評価の報告や入居者の状況、ホーム行事等についての報告及び意見交換がなされている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 苦情処理票を作成し、それが運営に反映されるような仕組みになっているが、未だ苦情が寄せられたことはない。家族の面会頻度が多く、入居者の様子を随時報告している。面会の少ない家族の対応としては、入居者が服用している薬を家族に届けてもらう等、ホームに足を運ぶ機会作りを意識的に行っている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 新興住宅街でアパートが多く、近隣との連携は今一つである。自治会の加入でゴミゼロ運動や保育園の運動会に参加している。ホーム前の道路が通学路になっており、学校帰りに子供達が立ち寄ることもある。 |

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-------|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | | 地域密着型サービスとしての理念 | | | |
| 1 | 1 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 個々に徹した援助活動、公平、公正なサービスの提供を理念に支援を行っている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 各ユニットの入口、事務所、職員休憩室に理念を掲示している。また、職員採用時の初期教育資料で周知し、月1回の職員会議で理念の共有を図っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会行事のゴミゼロ運動には行ける入居者と職員が参加し、地域貢献を行っている。また、保育所の運動会への参加や高齢者保護事業の一環である徘徊してしまった高齢者の保護援助に当たっている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員に自己評価票を配布し、記入されたものを事務長が取りまとめた。しかしながら、評価の意義および評価結果の活用について、すべての職員により一層の理解を促す必要が感じられる。 | ○ | 管理者は職員に外部評価の意義を再確認し、評価結果については職員全体に報告して話し合う必要があると思われる。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は3か月に1度、匝瑳市高齢者支援課長、民生委員、地区会長、家族代表、ホーム代表らの出席で開催している。しかしながら、現場職員の参加や運営推進会議に対する理解は今後の課題となっている。 | ○ | 運営推進会議には、現場職員も参加して話し合うことが必要と思われる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|--|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の担当者には毎月、定期的にグループホームの入居状況を報告している。また介護保険の更新手続きや、困難事例の対応の協力を仰ぐ等、顔を合わせた話し合いを行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 入居者のホームでの暮らしぶりを写真に収め、2か月に1度ホーム便りに掲載し、家族に送付している。金銭出納帳は毎月発送しており、急な連絡は都度電話での報告を行っている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会は頻繁で、その時に意見・要望を聞くようにしている。苦情に関しては、苦情処理票を作り、ケアに反映させる仕組みになっている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニットの担当職員を固定し、作業を入居者と一緒に行う等、信頼関係が崩れないように努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が外部研修参加の声かけはしているが、全職員が必要に応じた研修を受講しているとは言えない状況である。内部での勉強会等もあまり行われておらず、年間を通じて職員の学ぶ機会が少ないように感じられる。 | ○ | 職員の経験や技能に応じた研修を、内外問わず、計画的に行っていくことが重要と思われる。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会や匝瑳市高齢者SOSネットワークに加入している。旭市のグループホームと親しい間柄にあり、2ヶ月に1度、職員が交代で交流を持ち、事例検討等の話し合いを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | グループホームの見学はいつでも可能である。体験入居で宿泊日数を少しずつ増やし、馴染んでもらうことも可能だが、居室の空き状況により、いつでも実施できるとは限らない。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 家事、食材の選択、生活の知恵等、職員は人生の先輩である入居者から学ぶことが多い。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 包括的自立支援プログラム方式のケアプランを導入し、入居者個々の状態や希望に沿った支援をしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 計画作成担当者は、入居者個々に課題分析を行い、本人・家族の希望を踏まえ、管理者・職員で話し合いをしながら、介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 半年に一度の定期見直しの他に、月1回のミーティングで入居者個々の状況を検討している。必要があれば随時計画の見直しを行う。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|-----|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームで利用できる車が2台(8人乗り・リフト付きの4人乗り)あるため、病院や買い物等の送迎には柔軟に対応できる。家族のホームへの宿泊も可能である。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者個々の希望に即したかかりつけ医への受診を支援している。提携の匝瑳市民病院は24時間対応が可能。健康診断は年1回実施している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療行為が必要でなければ、入居者・家族の希望に応じ、ホームでのターミナルケアが可能である。医療行為が必要になった場合の対応を、現在検討中である。 | | 提携の鈴木医院(内科・産婦人科)に往診をお願いしているところであるため、実現が期待される。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報の保護には職員全員で気を配るとともに、羞恥心への配慮にも注意を払っている。調査時も気になる声かけや介助などは見受けられなかった。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の意向やペースを尊重し、個々の能力を発揮してもらっている。食事の準備や後片付け、おしゃべりを楽しむ、横になるなど、皆、思い思いに過ごしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューには入居者の好みや要望を取り入れ、職員とともに買出しや準備を行っている。食事中、職員はさりげなくサポートしながら、共に楽しんで食べる光景が見受けられた。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 体調不良などで無い限り、入居者はみな、毎日入浴することができる。時間帯は概ね午後からで、2人介助の入居者から入り始める。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者個々の力に応じ、食事前後のテーブル拭き、日めくりをめくる、草取り、散歩、車で食材の買出し等、様々な役割や気晴らしを行っている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近隣の散歩や食材の買出しのほか、衣服を購入しに出かけたり、美容院へ行ったり、希望に応じて様々な場所へ出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 原則として日中の施錠は行わないことになっている。玄関には鳥の声のセンサーが付いていて、入居者が外にでたらわかるようになっている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防計画に基づく避難訓練を定期的実施している。地域の避難場所までは距離があるため、近隣との連携が不可欠であるが、実現にはいたっていない。 | | 運営推進会議等を通じて、非常災害時の地域協力について話し合い、連携体制を作ることが必要と思われる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスおよび食事量は日々チェックしており、必要に応じて水分量も記録する。入居者個々の適量も把握するようにしている(ご飯多めの人、少なめの人など)。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や装飾品、入居者の写真などを飾り、家庭的な雰囲気作りに努めている。ソファ等、くつろぐ場所も各所に作られている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が使い慣れた家具、馴染みの品々を持ち込み、自分らしい部屋作りを支援している。 | | |